

独立行政法人教員研修センター委嘱事業

平成 28 年度教員の資質向上のための研修プログラム開発事業

e ラーニング教材を活用した初任者の授業力向上に資する汎用的研修プログラム

## 実施報告書 別添資料

訪問調査内容（実施報告書 p. 26）

### ①大阪教育大学教職教育研究センター

i) ①同学が教員研修センターの委嘱を受け取り組まれた『H25.26 年度教員研修モデルカリキュラム開発プログラム・「省察力」と「同僚性」の育成を核にした初任期教員育成支援プログラムの開発』について…教師は学校で育つ／若い教師が元気に育っている学校の秘密を解き明かすと、ベテランが無自覚でやっていることが整理され、OJT によるサポート活動が充実している。

②大阪狭山市教育委員会と協働している若手育成プログラム、大阪狭山市がじゅまるカフェの取り組み（大阪教育大学革新強化推進事業・教員能力開発プログラム）について…若手教員は学校の中で集団的に育つ／若手教員がつながり、全体的に学び合い、明日からすぐ試せる実践的な内容を集合研修+OJT 的に実施している／教育委員会と校長、学校の信頼関係が重要。※2016 年 11 月 8 日に第 6 回がじゅまるカフェ「とっておきの言葉」（岡田耕治教授）を視察。

約 80 分のワークショップに 23 名の若手教員が参加。発声、姿勢、表情、聴くといった基本的事項を全体で振り返り。パワーグラフの作成、逆境体験を話す・聴く活動で今後の逆境経験を乗り越えるためのレジリエンスを高める方法が共有された。

### ②大阪府教育センター

i) 基礎的・基本的事項が早期に定着するか否かにより、その後の初任者の資質向上に大きく影響するため、初任者研修の充実によって育成強化を目指している。特に児童生徒の理解、個に応じた学習指導等の在り方、保護者等との対応、協働性などに重点を置き、大阪の授業づくりスタンダードの継続的な見直しとキャリアステージに応じた研修の充実を図っている。

ii) 反転学習で使用した e ラーニング教材（映像講座）について、教志セミナー（教師塾）やプレナビ（赴任前研修）において、課題映像を通じて授業の基礎基本や子供との関係づくりを学ぶ教材として、活用できると感じられた。教師塾の学生はまじめで意識は高く、見た目の良し悪しを考えることはできる。但し、課題映像の改善が必要な場面を自分に置き換え、自分の弱点をどのように補うか、自分の姿を客観視して、自分かどのように子供からみられているか、保護者からみられているかということをもた認知できる力を高める必要がある。自分の問題としてどのようにとらえるかという学習を進めるために指導者の補完が必要である。

### ③大阪府豊能地区教職員人事協議会

i) 豊能地区は政令指定都市を除いて全国で初めて人事権の移譲を受けた市町であり、教職員人事協議会の全体(3市2町)に共通して必要とされる内容や地域に根差した特色ある研修を実施している。初任者研修については、共通研修を15回、各市町の課題に応じた研修を10回実施しており、グループワークを多く採り入れ、帰属意識を高めることや、受講者同士、受講者と講師の距離の近い研修となるように留意している。特に授業づくりの研修については、大阪教育大学附属池田小・中学校との連携を取り、教材研究から学習計画、授業づくりを実地で学び、模範授業の研究協議により、授業の構造化について理解を深める等、実践的な研修機会の充実を図っている。この他、校外研修において小・中初任者研修通信「Hop Step Jump」を配布し、前回の内容を振り返り、風化させないように工夫し、初任者へ研修のねらいを確認すると共に、他の初任者の学びや気付きの共有を図ることで、高め合うコミュニケーションツールとしても有効活用している。

ii) 豊能地区の研修では大阪が目指す授業スタンダードの理解と徹底に優先順位を置いている。eラーニング教材(映像講座)は指導の場面や対応がイメージしやすいものであると感じたが、授業や指導における基礎基本といった教え方のノウハウなど、実地指導は自校式の校内研修で行っている。校外研修では、教師として身に付けてほしい人権感覚や児童・生徒理解、子どもの見取りと共に、教科や授業の目的・目標の見方や作り方、授業の構造化、効果的な発問の在り方等、実践力を高める研修に力を入れている。足立区で実践されたプログラムについては、今後の初任者研修やミドル・ベテラン含めた研修充実の参考としたい。

### ④神戸市教育センター

i) 平成21年度に小学校、中学校・高等学校、特別支援学校の初任者研修対象者は300人を超え、その後数年間は300人前後で推移している。大量退職、大量採用が続く中で、組織における若い世代が占める割合は、これまでになく高い。50代の中でも退職前の教員が多いため、若手教員の割合が今後一気に上昇することが予想される。大学を卒業したばかりの者にとっても、長年臨時講師等を務めてきた者にとっても「初任者」としてのスタートラインに立つことは同じで、学び続ける教員としての地盤を築くことが大切であると考えている。

そうした中で、初任者や若手教員を中心においた研修体制を構築するために、OJTとしての初任者研修の内容や方法を整備するとともに、初任者の負担を軽減しながら、学校全体で、初任者や若手教員を指導する体制づくりのための効果的な支援を行っている。また、成長指標を設定し、初任者の自律的な成長も促している。

教員の約10%を占める臨時的任用教員を対象に、特に一般的な社会人としてのマナーに関する研修を実施している。今後、児童生徒理解を中心とした生徒指導及び学級経営研修、教材研究・授業展開・学習評価等の単元を通じた授業づくりに重点を置いた

教科指導研修，地域や家庭との連携強化のための研修等についても実施を検討している。

#### ⑤滋賀県総合教育センター

i) 初任者研修については，受講者参加型研修を多く取り入れ，協議演習の時間を十分に確保することや，異年齢異校種間での協議により気づきを深められるように留意している。また，模擬授業や実務研修等についても現場の教員を講師とすることで，担当者の資質向上にも活かしている。校外研修は20日（県16日，市町4日）で実施し，基礎的基本的事項を習得することを意識している。今後大量退職の時期を迎えた時に教育力の低下が危惧される一方で，子供と向き合う時間を増やしたいと考えているため，一定の満足度は得られているものの，更に実践的な研修を進めて行く必要があると考えている。

ii) 早稲田アカデミーが実践したプログラムの全て（反転学習とスクーリング〔集合研修と授業診断〕）を採り入れ，独自に運用していくことは時間的に難しい。個々に課題が違うので，反転学習内容も必ずしも同じ内容・順序で一斉に行わなくても良いとも考える。

一方，課題発見型の学習や映像を使った集合型研修は活かせると感じられる。良い先生の授業を映像（導入の10分等）にまとめ，どこが良いか，どのように取り入れるかを考える学習も良いのではないか。

#### ⑥静岡県総合教育センター

i) 初任者約500名のうち講師経験者（高校に多い）が多い傾向がある。30代40代が少ない。上の世代が抜けたときに厳しいことを想定して，マネジメント力，OJT力，新しい教育課題などに対応できる力を養うミドルリーダー育成の研修に力を入れている。

初任者が抱える不安は板書や発問等の授業のスキル以前に，学級づくり，児童生徒対応，保護者対応等の躓きやすいところであり，早期に研修をすることは有用である。

小・中学校において，教科等の指導に関して中堅教員としての資質向上を図るため，指導力のある教員を教科等指導リーダーに任命し，公開授業や研究授業を通して若手教員への支援を行っている。さらに，中堅教員の学校組織における役割認識を高め，若手教員の育成促進や学校組織に活性化に資するため，次世代の学校マネジメントの主体となる40代半ばの中堅小・中学校教員を対象とした新たな推薦研修「キャリアアップ研修」を実施している。県立学校（高等学校・特別支援学校）では，新たに学年主任となり学年運営に携わる教員を対象に学年主任連絡会を実施している。広い視野と高い専門性を備えた教員を養成するため，指導力のある中堅教員を各種研修へ継続して推薦及び派遣している。大学院への派遣や他教科免許の習得等も奨励している。

ii) ユニバーサルデザインの「授業における教師の構え」，すなわち，教師が授業を実践するときには，子供の視点に立つこと，子供の思考に寄り添うこと，そして柔軟な思

考や姿勢を持つことなどが大切である。eラーニングで知識として事前に学び、研修等で理解を深め、授業の実践に活かすという一連の流れは、初任者研修の1つの在り方として共感できる。アクティブラーニングやカリキュラムマネジメントの理解や活用についても応用できるかもしれない。

#### ⑦奈良市教育センター

i) 奈良市は現在、在籍教員に占める30歳未満教員の割合が23.2%（平成27年度）であり、10年後には36.9%（平成37年度）となる見込みである。そのため「ベテラン教員の経験や教育技術のスムーズな継承」と「若手教員の育成・ミドルリーダーの育成」、加えて、児童生徒の学習に対する関心・意欲・態度の向上（学習意欲をいかに引き出すか）に課題意識を持っている。「必修研修や職務研修に校務が忙しく参加できない」という教員の声も多く上がっているため、奈良市はこれらの課題を解決するために、独自の『個別訪問研修＋振り返り研修』を実施する他、校區別集合型研修、校内研修の充実を図り、教員の負担を軽減し、児童生徒の指導に専念できる支援づくりの整備を進めている。「なら学びの広場」の開発・運用はその一環であり、ICT環境を活用した研修ツールと研修体制の構築とその充実により教員の資質能力向上を目指す。

ii) 平成27年度より開始した教員個別訪問研修で若手教員を直接訪問指導した際に見取った実態から「初任者が身に付けるべき力」として①学級・学習指導力、②生徒指導力、③安全に職務を遂行する力、④コミュニケーション力、⑤学校運営力・組織貢献力、に変更している。「なら学びの広場」を「初任者研修の充実」に活用するため、e講座を利用したモバイルラーニングを組み込み、授業基本動作や指導基本スキル、保護者対応の留意点の確認を行う。

#### ⑧浜松市教育センター

i) 40～50代が50%弱。10年後に現50代が抜けるため、今あるベテランの技をどうやって若手に引き継いでいくか、また、若手をどのように育成していくかが大きな課題。ベテラン教員の授業力を若手教員に伝承するための取り組みの1つとして、平成20年度に「浜松教師塾」（師範1人と塾生2人で1つの塾を組織し、毎年20の塾を開設）を立ち上げた。同年度に若手育成のために「初任者研修と10年経験者研修のコラボ研修」（10年経験者2人に対し初任者6人程度でグループをつくり、学習指導や学級づくり、生徒指導等についてアドバイスするもの）もスタート。平成24年度からは新たに「スーパーティーチャー授業公開」（授業力に優れる教員に研修講師を依頼し、授業技術や教育観を若手中堅教員に実際の授業と講話を通して伝える）を開始している。平成28年度はスーパーティーチャーを4名から10名へ増員した（スーパーティーチャーに選ばれた50代後半教員のモチベーション維持にもつながっている）。初任者や若手教員には、スーパーティーチャー授業公開を奨励している。ベテラン教員が対話を通じて、子供観、授業観といった「観」を若手に伝承していくことをねらいとしている。110名の臨時任用のうち50%が講師経験者。平成28年度から、初任者並びに新規の臨

時的任用教員に対してスーパーティーチャー授業公開を選択必修研修として実施している。新規の臨時的任用教員に対しては、年4回の必修研修を行っている。(そのうち2回が選択必修研修、一つがスーパーティーチャー授業公開、もう一つが「各自の力量を高める研修(希望研修)」から一つ選択)

『研修ガイド』は、必修研修からではなく、希望研修から配列し、各講座の説明に「キヤッチコピー」を入れたところ、受講者数が増えた。

#### ⑨宮崎県教育研修センター

i) 南北に広く、遠方(特に僻地校)から一つの会場に集めて研修を行うのが困難な地理的条件下、受講者の移動時間の負荷軽減のため、伝達関連の研修において、年に3回程度、テレビ会議システムを利用し、教育研修センターの他2会場(+延岡市・都城市)に分けて実施している。また、ICT「教育ネットひむか」を活用し、県内の教員が、スーパーティーチャー等の授業を視聴したり、言語活動の充実・学校におけるキャリア教育・情報教育・生徒指導の参考資料や指導案をダウンロードしたりできるようにしている。

学校には、社会の変化に伴い、保護者や地域からの多様なニーズへの対応や教育の情報化、特別支援の充実などこれまで以上に様々な対応が求められている。これらのニーズに対応しながら、負担感や悩みを抱える教職員の「学び続ける姿勢」を支援するとともに、教職員がその能力を発揮できる働きやすい環境づくりを推進している。そうした意味で校内研修の充実と活性化にも力を入れている。

臨時的任用講師研修は、授業の経験のない者が多い。校外研修として行うのが非常に困難な状態である。5月～6月にかけて、小中学校講師は1回、県立学校講師も1回となっている。臨時的任用講師は、知識習得は一から必要となってくる。また、教員採用試験にもつながるので、eラーニング教材の活用は授業力向上、その講師にとっても有用である。

ii) 初任者は講師経験が長い教員が多いため、大学新卒者は少ない傾向がある。非常勤講師は300人補充しているが、今後講師歴のない初任者が増加することが見込まれている。講師経験のない初任者、集団指導経験のない初任者、経験年数の浅い初任者は、授業の基礎基本、保護者対応の基本について、eラーニング教材を用いて反転学習(自己研鑽)を基軸にした自己点検、知識習得・課題発見型学習は研修として効果的であると思われる。

## 別添資料① 第12回通知文章・ID及びパスワードの配布について

平成28年10月12日

関係小・中学校長 殿

宮崎市教育委員会教育長

平成28年度 第12回初任者研修について（通知）

このことについて、別紙実施要項のとおり実施します。  
つきましては、貴所属関係職員の出席についてよろしくお願ひします。  
また、今回は文科省の委託による「民間のノウハウを活用した研修プログラム開発事業」の一環として、受講者にはeラーニングによる事前学習やレポート作成等を課し、管理職の方にはその点検や所見記入をお願いしております。  
大変お手数をお掛けしますが、御協力のほどよろしくお願ひします。

文書取扱：宮崎市教育情報  
担当：[REDACTED]  
TEL：[REDACTED]  
Mail：[REDACTED]  
分類番号 [REDACTED]

平成28年10月12日（木）

宮崎市立小学校・中学校 学校長

宮崎市教育情報研修センター

**第12回初任者研修の通知ならびに事前学習用ID及びパスワードの配付について**

第12回初任者研修では、民間教育団体を活用した研修プログラム開発実践の一環として、映像による事前学習、当日研修、事後学習を一連の流れとした研修を実施します。  
つきましては、以下3点を初任者に配付いただきますようお願い申し上げます。  
尚、事前学習時のレポート欄への所見欄記入、また事後学習時の管理職による授業観察と初任者へのフィードバックならびに研修報告書の所見欄記入につきまして、ご協力をお願い申し上げます。

—記—

1. 「教師力養成塾 e-講座 ID通知書」A4・1ページ  
※ID及びパスワードの保管にご留意ください。
2. 「教師力養成塾 e-講座を活用した初任者研修の流れ」A4・4ページ
3. 「受講レポート」A4・2ページ  
※初任者は作成後、管理職に提出します。校長の所見欄の記入および押印をお願いいたします。
4. 担当 [REDACTED]（宮崎市教育情報研修センター指導主事）
5. e-講座視聴に関する問い合わせ先  
株式会社 早稲田アカデミー  
住所：東京都豊島区池袋2-53-7  
担当：教育事業推進部 教師力養成塾 e-講座事務局  
電話：03-5954-1161（代表）  
メール：youseijuku@waseda-ac.co.jp  
※お電話での受付時間は、平日午前10時～午後6時までとなります。時間外のお問い合わせはメールでの受付のみとし、翌受付日以降順次対応いたします。お問い合わせの際には、必ず所属の明記をお願いいたします。

以上

本研修は、民間事業者のノウハウを活用した研修による、初任者の指導力向上を目的としています。今回の実施にあたっては教師力養成塾と協働して研修を運営するに加えて、教師力養成塾が委託を受けている文部科学省の調査研究事業および独立行政法人教員研修センターの「民間のノウハウを活用した研修プログラム開発事業」に協力しています。研修の成果は匿名性を担保した上で実践記録がまとめられ、報告書については教員研修センターから公表される予定です。

**平成28年度**  
**第12回初任者研修**

**実施要項**

**1 目的**

宮崎市に勤務する初任者研修の対象となる新規採用教諭に対して、教育の情報化及び授業づくりや保護者対応に関する研修を実施することにより、実践的指導力の向上を図る。

求められる 資質や能力	Ⅲ 学習指導力・授業力	① 基礎的な授業力
	Ⅱ マネジメント力	⑤ ICT活用力
	Ⅰ 基礎的素養	② 保護者との協力・連携力
		⑦ 教育的視野の拡大

**2 主催**

宮崎市教育委員会

**3 日時**

平成28年12月6日(火) 9:30~16:10

**4 場所**

宮崎市教育情報研修センター 大研修室・PC研修室

**5 対象者**

宮崎市立小・中学校新規採用教諭41名(小学校25名、中学校16名)

**6 講師**

- ① 講義・演習1, 2 宮崎市教育情報研修センター 指導主事
- ② 講義・演習3, 4  
早稲田アカデミー 教育事業推進部 事業推進課長 教師力養成塾 責任者 杉山正典  
早稲田アカデミー 教育事業推進部 事業推進課 教師力養成塾 e-フロンティア 牛嶋孝輔

**7 日程及び内容**

時刻	9:15	9:40	10:45	13:00	14:35	16:10		
	9:30	10:30	12:00	14:20	16:00			
内容	受付	開会・連絡	講義・演習1	講義・演習2	休憩 (昼食)	講義・演習3	講義・演習4	閉会・連絡
			情報モラル教育	ICT活用の在り方		授業は開始3分で決まる!	保護者との信頼を築く5つのスキル!	
会場	大研修室		PC研修室	大研修室				

**8 その他**

- ① 「ICT活用の在り方」では、フラッシュ教材の作成を行います。所属学年の教科書を各自1冊準備してください。小学校はどの教科でも構いません。また、USBメモリを持参してください。
- ② 午後の講義・演習は、映像講座による事前学習の必要があります。「教師力養成塾e講座を活用した初任者研修の流れ」を確認し、事前学習に取り組んでください。
- ③ 事前学習で使用したサブノート(1部)、受講レポート(A4裏表8部)を持参してください。

別添資料③ 教師力養成塾 e-講座を活用した初任者研修の流れ

### 教師力養成塾 e-講座を活用した初任者研修の流れ

(民間事業者のノウハウを活用した授業力向上研修プログラム)

日々の授業を振り返り、授業の基本的な振る舞いや、児童・生徒と円滑なコミュニケーションが取れているか点検することは、指導力向上のために大切です。自身の授業を振り返って課題をつかみ、民間事業者のノウハウを活用した研修を通じて、指導力の向上を目的としています。事前学習・実践演習・事後学習を組み合わせた研修を通じ、郷土に誇りと愛着をもつ感性豊かな『みやざきっ子』を育てる実践的な学びの機会としてください。

■学習の流れ

①事前学習 10~11月	<p>1. 映像教材 (e-講座) による事前学習 (4講座)</p> <p>第1講座「学習する空間づくり」 第2講座「授業を聞く」 第3講座「授業を創る」 第5講座「保護者対応①」</p> <p>2. 受講レポートの作成 (全2枚)</p> <p>12月6日 (火) 研修当日に持参</p>
②実践演習 (第12回初任者研修) 12月	e-講座による事前学習に基づいた講義・実践演習 12月6日 (火) 13:00~16:00 ※事前課題の準備をした上で研修に臨んでください
③事後学習 管理職による 授業見学 12月 自主学習 振り返り	<p>1. 映像教材 (e-講座) による振り返り (2講座)</p> <p>第4講座「やる気を引き出す」 第6講座「保護者対応②」</p> <p>2. 管理職による授業観察・授業フィードバックの実施</p> <p>授業観望! 5分間の授業観察・授業後アドバイスを受ける</p> <p>3. 受講報告書の作成 (全1枚)</p> <p>1月11日 (水) 教育情報研修センターに提出</p> <p>4. e-講座による振り返り</p> <p>映像教材の再見し・自己課題の把握・実践による確認及び工夫改善</p>

本件は、教師力養成塾 (運営 株式会社早稲田アカデミー) が文部科学省より委託した調査研究事業の一環として、また、独立行政法人教育研修センターより受託した「民間のノウハウを活用した研修プログラム開発事業」の実践研修の機会として、宮崎県教育情報研修センター協力のものと、協働連携して実施するものです。研究・実践の成果は匿名性を担保した上で報告書にまとめ、教育研修センターより公表される予定です。汎用的な初任者研修プログラムの開発に向けて、管理職・教員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

**教師力養成塾** 1

1) 事前学習 (e-講座) の進め方

児童・生徒の学習意欲を引き出すために、e-講座の映像から自らを点検し振り返ります。映像の授業のようになっていないか、自分の授業の課題を発見し、改善策を考えレポートに記してください。

■学習の流れ

1. e-講座の視聴



映像視聴を進めながら、気づいたことをサポートに書き記します。(視聴時の補助資料としてご参考ください。使用されたサポートは、参考用として当日お持ちください。)

1講座あたりの学習時間の目安は90分です。

視聴内容  
\*授業編 ……第1講座「学習する空間づくり」・第2講座「授業を聞く」・第3講座「授業を創る」  
\*保護者対応編…第5講座「保護者対応①」 視聴し、分かち合う

2. レポート作成

映像視聴後、受講レポートを2枚作成します。  
(①授業レポート②保護者対応レポート) 映像の藤本先生の授業から、自分の授業における課題を考えます。サポートを振り返り、日々の授業実践や児童・生徒への指導やその反応を踏まえて、その課題に対してどのように行動したらよいかをレポートしてください。

提出方法: 12月6日 (火) 研修時に持参 (2枚とも)

■学習のポイント

課題発見 ⇒ 課題考察 ⇒ 課題解決 ⇒ 実践活用

1. 課題映像を見て、映像の中の教師の課題を発見します。
2. 課題を発見し、本来あるべき姿、課題解決のための行動指針を考えます。
3. 解説映像を見て、本来あるべき姿、課題解決のための行動指針を書き出します。
4. 自分の姿を重ねて、課題映像を見直します。自分だったらどう行動するかを考え、実践します。

**教師力養成塾** 2

2) 実践演習 ※詳細は当日説明します

e-講座での学びをもとに事前課題の内容を受講生全員が実践し、相互評価を通して学びを深めます。

実践演習 (1) 授業冒頭の発話

自己の授業を振り返り、他者の実践から学ぼう!

授業冒頭でどのような発話をし、子どもたちの興味・関心を高めるかを学び合います。自分の授業を点検し、他者の実践から学び明日からの授業づくりに役立てましょう。

事前課題: 授業冒頭の発話の発表 ※発表時間2分・全員実践・教員等の準備は自由です。

実践演習 (2) 保護者対応

保護者と信頼関係を築こう!

保護者との信頼関係を築き、子どもへの指導に活かしましょう。円滑なコミュニケーションを取るための具体的な方法を学びあい、ロールプレイで実践します。

事前課題: 特になし ※レポートを使用します。当日忘れずに持参してください。

3) 事後学習

e-講座・実践演習 (初任者研修) での学びをふまえて、事後学習を行います。気づいた点を繰り返し実践し改善を重ね、更なる授業力向上を図りましょう。

1. 映像による振り返り

事前学習と同様に、第4講座、第5講座を視聴します。映像の中の授業で自分に当てはまるものはないか、よりよい授業運営のためにどのように授業を行うかを考えてください。

2. 管理職による授業観察・授業フィードバックの実施

実践演習後12月末までに、管理職に授業見学をしてもらい、アドバイスをいただきます。その際、事前学習のレポートを渡し、「今自分が捉えている課題」と「どこに留意して授業を行うか」を予め伝えて授業実践をしてください。

3. 受講報告書の作成 (全1枚)


授業見学実施後、12月までに受講報告書を作成し、管理職に提出します。これまでの学びから、自己の課題、また変化内容を見取り、今後の授業運営に活かしてください。

提出期限: 1月11日 (水) 情報研修センター着 (管理職から提出)  
※管理職の所見欄の記入、押印が必要です。余裕を持って報告書を出し、依頼をお願いします。

**教師力養成塾** 3


(参考) 教師力養成塾 e-講座 受講方法

① <http://yousei.jku.jp/> にアクセス  
② 「団体受講の方はこちら」 ボタンをクリック  
\* <http://yousei.jku.jp/> をブックマーク (お気に入り) に追加してください。




③ ログインID、パスワードを入力  
ログインID: \_\_\_\_\_  
パスワード: \_\_\_\_\_  
④ 入力完了後、「ログイン」ボタンをクリック

⑤ 左上の「学習ページ」のタブ、「授業力向上コース」のタブを順にクリックし、受講する講座名を選択します。  
第1講座~第4講座を受講できます。  
「保護者対応編」のタブをクリックすると、保護者対応①前半 (保護者からの相談対応・電話対応)・②後半 (個別面談・授業参観・保護者会) を受講できます。



⑥ 右側に表示された緑色のボタンをクリックし、ポップアップで表示された項目を選択  
※各講座の「1」はPDF形式のテキストです。  
※映像受講の前に印刷してください。テキストは映像を視聴しながらポイントやキーワードを書き込むサポートになっています。




⑦ 視聴したいチャプターをクリック。  
⑧ ポップアップの「再生」ボタンをクリックし、視聴開始。  
※初回受講時は、順番通りに受講してください。  
※第1講座~第3講座 (授業編)、保護者対応①・② (保護者対応編) には、課題映像と解説映像があります。  
※課題映像視聴後、課題を発見し、改善すべき点を考え、サポートに記入してください。

**教師力養成塾** 4



別添資料④ 映像講座受講レポート 授業編・保護者対応編



第12回 初任者研修事前課題

教師力養成塾 e-講座 受講レポート 授業編

平成 年 月 日 ( )

所属学校名	担当学年	教科	氏名
小・中			印

映像の内容で、授業を実施する上で参考になったキーワード3つに○をつけてください。

講座	単元	キーワード
1	挨拶	発声 ・ 語尾をハッキリと話す ・ 声かけの工夫
	視線	全体に視線を配る ・ 視線と体を持つ ・ 立ち位置 ・ 視線の動かし方 (Zの形)
	車指し	一つの指し ・ 明確で行動しやすい指しを出す ・ 行動を見取る
2	聴く姿勢	顔姿身だしなみ ・ 音動 ・ ルールを具体的に設定する ・ 生徒の反応を確かめる
	熟慮	学習の理由を語る ・ 先生の思いをこめて伝える ・ 授業開きで何を話すか考える
	約束	約束を守る ・ 約束の重さを理解する
3	目標	めあての提示 ・ 授業の時間設定 ・ 授業内容の作り方
	板書	目付タイトルめあての提示 ・ 板書する箇所 ・ 色使い ・ 半身 (はんみ) の姿勢
	宿題	具体的に宿題を出す ・ 宿題をチェックする ・ 宿題を見取る (ほめる ・ 指導する)

① 第1講座～第3講座で学習した単元に関して、これまでの自分の授業を振り返り、自己点検・自己分析をしてください。特に実践できている点、改善が必要だと考える点 (課題) 3つを記入します。

実践できている点

改善が必要と考える点3つ (課題)

➤ \_\_\_\_\_

➤ \_\_\_\_\_

➤ \_\_\_\_\_

② 上記の課題の中で、最優先で取り組むべき課題と解決の手立てを考え記入してください。


最優先課題「 \_\_\_\_\_ 」

解決の手立て 1. いつまでに  2. どのような状態にするか   	3. そのために何からはじめるか (行動指針と内容)   
--	--

[確認印]

校長	教頭	指導教員	[評価記入欄]

提出方法：12月6日(火)第12回初任者研修に持参  
 事前課題：最優先課題をふまえた授業冒頭の発話の発表準備 (発表時間2分・全員実践・教員等の準備は自由)



事前課題

教師力養成塾 e-講座 受講レポート 保護者対応編

平成 年 月 日 ( )

担当学年	教科	氏名
小・中		印

上で、保護者対応について以下のレポートを作成してください。

の振り返り、うまくいかなかった事例を一つ具体的に書き起こしてください。

① これまでの保護者対応 (来訪・電話等) を振り返り、自己点検・自己分析をしてください。特に実践できている点、改善が必要だと考える点 (課題) 3つを記入します。

実践できている点

改善が必要と考える点3つ (課題)

➤ \_\_\_\_\_

➤ \_\_\_\_\_

➤ \_\_\_\_\_

② 上記の課題の中で、心がけるべきことは何ですか。対応でどのような素養を高めていきますか。

心がけること「 \_\_\_\_\_ 」

必要な素養 \_\_\_\_\_

[確認印]

校長	教頭	指導教員	[評価記入欄]

※提出日：12月6日(火)第12回初任者研修に持参

別添資料⑤ 研修受講報告書

第12回初任者研修事後学習	年 月 日 ( )
	小・中学校
	氏名 ( )
<b>研修受講報告書</b>	
第12回初任者研修（ <u>民間事業者のノウハウを活用した授業力向上研修プログラム</u> ）の報告をいたします。	
—記—	
1. 第12回初任者研修（事前学習・実践演習・事後学習）を踏まえた、自分の課題・取り組み・成果を記入する。	
<p>自分の課題</p> <hr/> <p>課題に向けた取り組み</p> <hr/> <p>成果</p> <hr/>	
2. 民間事業者のノウハウを活用し、自身の授業力向上・保護者対応に役立ったと感じたことを記入する。	
3. 2年次にはどのような教員を目指すか、どう行動していくかを記入する。	
<p>目指す教員像</p> <hr/> <p>どう行動するか</p> <hr/>	
4. 校長先生からご覧になって、第12回初任者研修は初任者の資質能力向上に役立ちましたか。 (大変役に立った・役に立った・あまり役に立たなかった・役に立たなかった)	
4の評価の理由	校長印



